

# 緑化だより

No.142 平成30年9月号



キツネノマゴ

9月1日(土)9時より部分開園します。

- 季節の花(ヒガンバナ)
- 昆虫の話(触るな危険！金平糖虫！)
- 小さな世界こけ(コケと生き物)
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



ひろしま 緑化の森

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp> E-mail [hiroshima@ryokka-c.jp](mailto:hiroshima@ryokka-c.jp)

# 季節の花

## ヒガンバナ

「道の辺の 壺師(いちし)の花の いちしろく 人皆知りぬ わが恋妻は」

柿本 人麻呂 卷 11:2480

これを訳しますと

(道端に燃えるように咲いているヒガンバナのような 激しい恋に燃えた愛する私の妻のことが 遂に世間の人に知れてしまったことだ)

壺師の花の特定には古くから諸説がありましたが、植物学者、牧野富太郎により漢名の「石蒜(せきさん)」が「いしし」と読めて、これがなまって「いちし」になったと言われます。また、彼岸花の中国名の[壺技箭(いちしせん)]に由来して、今でも九州や山口県の一部ではヒガンバナを「イチシバナ」「イチバナ」「イッポンバナ」と呼ぶことから、多くの学者がヒガンバナ説を支持しています

ヒガンバナ(彼岸花)はヒガンバナ科ヒガンバナ属の多年草です。別名は曼珠沙華(まんじゅしゃげ)ともいいます。中国から渡来した帰化植物で、本格的に世間に普及したのは江戸～明治時代です。それまでは毒々しい赤い花は当時の日本人には趣味がなかったのか、人々から見向きもされなかったようです。



ヒガンバナ

ヒガンバナは本州～九州の田の畔、土手、墓所などの人里に沢山生えています。花は秋のお彼岸9月23日頃には見ごろを迎えます。江戸時代後期1839年「天保の飢饉(ききん)」のころには救荒植物として植えていました。地下茎の球根はアルカロイドを含み有毒ですが、デンプンが含まれており、水にさらして食用にします。漢方薬としても利用します。あぜ道に植えたヒガンバナはモグラ、ネズミが畔に穴をあけるのを守り、植えたイネ、野菜が被害にあうのを防いだと言われています。

ヒガンバナは外国ではリコリスと呼ばれ、いち早く季節を伝える花、美しい花として、もてはやされています。日本人には、その毒々しい色と有毒植物で嫌われていましたが、今では観賞用に自宅のお庭に植えて風情を楽しむ人が増えています。(上村)

# 昆虫の話

## 触るな危険！金平糖虫！

残暑の頃、まだまだ日差しは強く、風の通る木陰はオアシスのようです。

しかし、秋の木陰には有毒で危険な「ヒロヘリアオイラガ」の幼虫が落ちていることがあり、注意が必要です。

彼らは、街路樹や庭木などの樹木と一緒に外国からやってきた外来種だといわれています。今では、西日本の街中で最も一般的なイラガのなかまです。オレンジや黒のアクセントが効いた蛍光グリーンの体色はいかにも毒々しい姿で、全身に並んだトゲは、見るからに触ると痛そうなこの幼



ヒロヘリアオイラガの幼虫

虫ですが、お菓子の金平糖に似ているため、子供が誤って手に取ってしまうことがよくあるのです。また、気付かないで触れてしまうことも多くあります。

どうすればそんな事故を防ぐことができるのでしょうか。そのためには、彼らの「痕跡」を探すのが一番です！

まず一つ目、彼らの好む木の下を避けましょう！彼らは広食性でいろいろな植物の葉を食べます。その中でも「カキ、サクラ、ナンキンハゼ、ケヤキ」は彼らの大好物です。公園などに植えられることの多い木なので要注意です。



ヒロヘリアオイラガの食痕

次に二つ目、彼らの食事の跡を見逃さないようにしましょう！彼らは集団で葉っぱを食べます。特に初令幼虫の頃には葉脈を残して食べるのです。そのため彼らがいる木には「茶色くスケスケになった葉っぱ」の残る枝が見られます。



ヒロヘリアオイラガの糞

最後に三つ目、彼らの落とし物に注意しましょう。集団で生活する彼らの「ウンチ」は大量です。彼らの潜む木の下にはたくさんの落とし物がコロコロと落ちています。その頭上には彼らがいること間違いなしです！

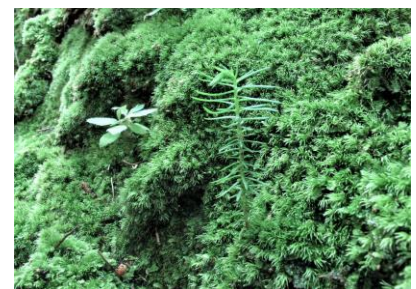
これで皆さんも安全に木陰で休めることでしょう。彼らに刺されたときには毒針をガムテープなどで抜き、アレルギーの薬を塗るとだんだんと収まっていきます。刺され方が酷い場合には皮膚科を訪れるのがいいでしょう。

金平糖のような虫は触るな！危険です！（広島市森林公園こんちゅう館 藤井）

## 小さな世界 こけ

### コケと生き物

コケのマットは湿度が保たれるため、その上に落下した樹木の種子は発芽するのに適した環境になっています。林内の倒木は数年すると朽ちてコケが生えてきます。その上に落ちたマツやスギなどの種子は芽を出し、やがて森を作ります。



コケの中に芽を出したスギの苗

鳥たちは、巣作りの材料にコケを使います。崩れた山の斜面に掘って作られたカワセミの巣の中からは、草の枝やキヨスマイトゴケ、ハイゴケなどが出てきました。メジロやオオルリはハイゴケ、キヨスマイトゴケや細かい小枝と細かいビニールひもを使って木の枝に丸いカップ状の巣を作ります。



カワセミの巣のコケのベット」

ヌルデに虫こぶを作るアブラムシの仲間はチョウチンゴケに産卵します。ゲンジボタルは水際のコケに産卵し、ムカシトンボはジャゴケやケゼニゴケに産卵します。ほかにも採集したコケからはヤマビルやダニの仲間、クマムシが出てくる場合があります。柔らかくほどよく湿ったコケを作る利用する生き物は他にもたくさんいるようです。（山根）

## 研修会のご案内

- 9月 1日(土) 『秋の七草と自然探勝』 中止
- 9月 7日(金) 『薬草健康講座』 10:00～12:00 学習室 集合  
※ 自由参加・無料、採集用カゴ持参 講師：広島国際大学教授  
神田 博史
- 9月 16日(日) 『9月の自然探勝』 10:00～12:00 学習展示館前 集合  
初秋の草木を見てみよう 講師：広島県文化財保護  
審議会委員(植物生態学)  
吉野 由紀夫  
※ 自由参加・無料
- 9月 22日(土) 『秋のきのこ入門観察会』 10:00～12:00 学習展示館前 集合  
講師と一緒に歩き、発生しているきのこの説明を聞きます 講師：きのこアドバイザー  
川上 嘉章  
※ 要予約(先着20名)・無料、

## ◎ 展示会

場所:レストハウス

(ガラスケース展示)

- ・ つづらふじ 手作りカゴ作品展 9月9日(日) ～10月26日(金)

(パネル展示)

- ・ 日本画作品展 9月9日(日) ～10月25日(木)

## ♪☆お知らせ・ご案内☆♪

### 部分開園のお知らせ

9月1日(土)9時より部分開園します。

豪雨災害のため約2ヶ月間臨時閉園していましたが、このたび応急的な工事等が完了し、部分開園できることになりました。閉園中、みなさまにはご心配、ご不便をおかけしました。園内は、災害により崩れた箇所などが多くあります。危険なところは立入禁止にしていますので園内各所で配布している「歩けるマップ」を参考にしてください。

### アクセス

現時点では、林道(福田～瀬野間)は災害のため通行止めです。このため、緑化センター西ゲート(第5駐車場側)及び第5駐車場は閉門しています。必ず、小河原方面の正面ゲートからの入園をお願いします。



昨年につづらふじ 手作りカゴ作品展より

## ～ 森林公園・こんちゅう館 臨時閉園のお知らせ ～

7月の西日本豪雨のため、当分の間臨時閉園します。再開につきましては、目途がついた段階で、改めてお知らせします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。